

2018 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第1戦
鈴鹿サーキット
2018年4月21日

予選 観客:22,000人 天候: 晴れ

国内のトップフォーミュラシリーズ、全日本スーパーフォーミュラ選手権が鈴鹿から開幕した。
VANTELIN TEAM TOM'S のドライバーラインナップは、36号車を中嶋一貴。そして、37号車をジェームス・ロシターがドライブする。
今シーズンから全レースでミディアムとソフトタイヤの2スペックを使用することになり、両スペックのタイヤキャラクターを探り、マッチするセッティングを施せるかによってラップタイムアップ、レースペースを速く、そして安定させるか課題となった。また、今回は、ホンダエンジンユーザーの速さが際立った予選でもあった。ロシターは、Q1敗退、17番手。中嶋は、Q3まで進み7番手となったが、トヨタエンジンユーザーとしては、2番手から決勝をスタートすることとなった。



- 規定によって、Q1は全車ミディアムタイヤで出走することが義務づけられた。
- ロシターは、ミディアムでグリップが感じられない状況で思うようにタイムアップすることができず、セッションは、終了してしまった。
- Q2では、コースアウトするマシンにより、セッションは途中で赤旗中断。混乱した状況の中で中嶋は2セットのソフトタイヤを投入して5番手でQ3へ。
- Q2で使用し、すでにピークグリップを失ってしまっているソフトでQ3を出走した中嶋は、Q2のタイムを上回ることができずに7番手となった。

Driver	Car No.	Q1	Q2	Q3
中嶋一貴	36	P9 1:38.178	P5 1:37.696	P7 1:38.471
ジェームス・ロシター	37	P18 1:39.143		

天候	晴れ/ドライ	
気温/路面温度	気温: 23-22 度C	路面: 33-31 度C

中嶋一貴 (36号車ドライバー)



「ミディアムでも、ソフトでもしっかりとグリップ感が得られずに終わってしまった予選でしたね。それ以上にホンダエンジンユーザーが圧倒的に速くてグリッドの上位5つを占めてしまった。タイヤにあったセッティング云々もそうですが、絶対的なパワー差にやられたという感じです」

ジェームス・ロシター (37号車ドライバー)



「どうなってしまったのか。Q1でコースインし、タイヤのウォームアップを終えても全くグリップしてくれなくてコーナーでスライドしてばかりだった。一体どうなってしまったのか、ミステリーだ。事前のテストではレースセットのペースは良かったので、着実に順位をあげて行くしかない」

小枝 正樹 (36号車エンジニア)



「ホンダエンジンの速さに圧倒されてはいますけれど、タイヤと良いマッチングするセットアップを探りあぐねているという状況ですね。今シーズンは、ミディアムに加えてソフトの二種類を使いますから、セットアップも大変になります。なんとかQ3まで残っていますが、それで満足することはできませんね。決勝では、予選順位よりも上でゴールし、できれば表彰台に立ちたいですね」

東條 力 (37号車エンジニア)



「ドライバーからの報告ではグリップしなかったということですが、一体どのような状況だったのかわれわれエンジニアにもとても不思議なことが起きていたのではないかと思います。状況を分析するとともに、決勝ではどうやってこの後方の位置から順位を挽回するかですね。レースペースは決して悪くはないと思われるのでひとつひとつ上がって行くだけです」

館 信秀 (チーム監督)



「参った。ホンダエンジンの速さは驚きだった。決勝グリッドの上位をホンダ勢に独占されてしまった。そして、どのチームにも共通していることだが、新たなツースペックタイヤセットアップが今ひとつ見つけられていないようだ。エンジンに関しては、トヨタさんに頑張ってもらって、セットアップはチームのエンジニアリングを結集して頑張らねばならない」

2018 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第1戦
 鈴鹿サーキット
 2018年4月22日

決勝 観客:34,000人 天候: 晴れ

全日本スーパーフォーミュラ選手権 第1戦 決勝において、VANTELIN TEAM TOM'S の36号車を駆る中嶋一貴は、8位。37号車のジェームス・ロシターは、11位でフィニッシュした。



- 中嶋はソフトタイヤ。ロシターはミディアムタイヤを装着してスタートを切った。
- うまいスタートを決めた中嶋だったが、前方の同じ側のグリッドでスタートを失敗したマシンがあって、思うように順位アップできなかった。
- ロシターは、スタートでひとつポジションをアップ。しかし、序盤はタイヤのグリップ不足で苦しい走行を強いられた。
- 中嶋は、6位まで順位アップして18周目にピットイン。ミディアムタイヤへ交換、給油をして再びコースイン。
- 15周を過ぎたあたりから急激にタイヤのグリップが回復したロシターは、ペースアップしてどんどん順位をアップ。5位を走行中、32周目にピットイン。ソフトタイヤに交換し、給油をして戦列に復帰。レース中のファステスト・タイムを叩き出した。
- 中嶋は、終盤にグリップ不足のために苦しい走行を強いられて8位フィニッシュ。ロシターは11位に終わり、ポイントゲットできずに初戦を終えた。

Driver	Car No.	Position/ Time
中嶋一貴	36	P8 1:43.847
ジェームス・ロシター	37	P11 1:42.235

天候	晴れ/ドライ	
気温/路面温度	気温 26-24度C	路面 40-41度C

中嶋一貴 (36号車ドライバー)

「スタートは良かったのですが、3番手スタートの野尻選手がスタートを失敗して、それを前のマシンたちが避けようとして行き場を失ってしまって順位アップできませんでした。その野尻選手を2周目にパスしたのですが、その後はペースもあまり良くなくて、早めのピットインをしてミディアムに変えましたが、全然ペースは良くなくて、終わってみれば、8位という、内容の良くないレースでした」

ジェームス・ロシター (37号車ドライバー)

「決勝で再び驚くようなことが起きた。序盤はやはりタイヤが全然グリップせずに酷いレースだった。しかし、15周目くらいから急激にグリップが回復して一気にペースを上げられて順位アップできた。本当にびっくりした。本当に面白いように順位アップできた。ピットインしてソフトタイヤに換えてからも調子良くて、ベストタイムをマークすることができた。タイヤとのマッチングが良ければ速いことが確認できたので次戦では、今回のようなことが起きないように願いたい」

小枝 正樹 (36号車エンジニア)

「スタートからゴールまで不満が残るレースでした。ソフトでスタートして、なんとか順位をアップしたかったのですが、それもうまく行きませんでした。ピット作業は悪くはなかったのですが、その後のミディアムタイヤでのペースも良くなかったですね。予選でエンジンパワーの差が出ていたのですが、決勝では同じトヨタエンジンでも上位フィニッシュしたチームがあるので、まずは、ベストセッティングを探し出さないとなりませんね」

東條 力 (37号車エンジニア)

「スタートして直ぐに<全然ダメだ>という連絡があったのですが、少ししたら、<良くなった>と。そうしたら一気にペースが上がって、順位アップ。ミディアムタイヤでしたから思いっきり引っ張ってからピットイン、ソフトタイヤでも調子良くて、ファステストラップを叩き出してくれました。決勝で復調したことは良いのですが、どうしてこのような現象になったかよくわからないので、チェックして次戦に臨みたいと思います」

館 信秀 (チーム監督)

「一貴がなんとか1ポイントを獲得してくれたけれど、そのレース内容は良かったとは言えない。そしてジェームズに至っては、何か原因のわからない復調で順位を上げられたけれど、そのような状況では今後まともにシリーズを戦うことはできない。なんとかして現状を打開して、強いトムの存在を取り戻したい」



※次戦は、5月12-13日に、大分県のオートポリスにて、シリーズ第2戦が開催されます。